

ビヨンドトゥモローの学生たち

様々なバックグラウンドを持つ学生たちが日本全国から集い、自分の役割を探し続けています。



“仲間との切磋琢磨を続けるビヨンドトゥモローは、私にとって「学び舎」であり「マイホーム」だと思う”

新沙耶花 立命館大学政策科学部（大阪学芸高等学校卒業）

幼少期に母と死別、小学生の時から児童養護施設に暮らす。長い間、自分の生い立ちにはハンディキャップがあり、そのせいで自分は夢を叶えることができないのではないかと心のどこかで思っていたが、ビヨンドトゥモローでの活動を通じて、自分は逆境を乗り越えて夢を叶える力を持っているということ、そしてそれは多くの人の支えがあってこそということに気づいた。自分にとって温かい「マイホーム」であり、また学びのつきない「学び舎」であるビヨンドトゥモローで、自分が悩んだ経験を活かし、後輩たちが希望に満ちた夢を叶えるためのサポートをしていきたい。



“海外に行ったこともなかった自分が、ビヨンドトゥモローの活動でアメリカやアジアで経験を積み、更に今年は一人でタイに行き現地の孤児院でのインターンシップに参加するなど、想像もしなかった世界への挑戦を続けている”

佐々木琉希 東北学院大学教養学部（岩手県立大船渡高等学校卒業）

東日本大震災で父と祖父母を亡くし、自宅も流失。残された自分にできることは、亡くなった人の分まで精一杯生きることだと考え、震災前から取り組んでいた野球を震災後も継続し、全国大会にも出場を果たした。ビヨンドトゥモローの活動に参加して、自分の境遇を素直に打ち明けることで、似た経験をしている仲間の孤独に寄り添うことができることを知った。そして様々な活動に参加する中で、自身が体験した自然災害だけでなく、社会には多くの課題が存在することに気づき、将来は、人のために自らが動くことのできる人間になりたいと考えている。



“母子家庭に育ち、経済的な事情で進学や課外活動を諦めなければならないことも多かったが、ビヨンドトゥモローで様々なバックグラウンドを持つ仲間と出会い、「自分の家庭環境を言い訳にすることなくキラキラ輝ける人になりたい」と決意した”

松藤江巳吏 高知大学人文社会科学部（高知市立高知商業高等学校卒業）

母子家庭に育ち、経済的な事情で進学や課外活動を諦めなければならないことも多かったが、ビヨンドトゥモローで様々なバックグラウンドを持つ仲間と出会い、自分の家庭環境があったからこそ見える景色を大切に、未来に挑戦したいと考えるようになった。「自分の家庭環境を言い訳にすることなくキラキラ輝ける人になりたい」と決意。奨学金を受給しながら国内外での人材育成プログラムに参加したり、東京のベンチャー企業でのインターンシップにも挑戦、大きな変化と成長を感じる大学生活を送っている。



“ビヨンドトゥモローに初めて参加した時の衝撃は今も覚えている。自分の経験やバックグラウンドについて共有し、それを受け入れてくれる環境がそこにあった。そしてそれ以来、そこはいつも自分の居場所であり続けた”

飯田芽生愛 早稲田大学社会学部（長野県長野西高等学校卒業）

幼少期に母を自殺で亡くし、その後、養父からの虐待に耐える日々が続いた。その後、通報により保護され、児童養護施設に入所。つらい記憶だが、同時に「子どもたちの居場所創り」という夢を与えてくれた体験でもあると思う。高校生活を通してビヨンドトゥモローの活動に参加し、楽しかった時期だけでなく、行きたくないと思った時期も経験しながらも、やはり仲間と過ごす時間が自分の居場所となり、頑張る源になっていたのだと感じている。大学生としてビヨンドトゥモローに参加し、夏にはアメリカを初めて訪れ、英語でスピーチする役割も果たした。